提出日	令和 3 年　3 月 24 日	記入者	武市　和彦
団体名	ふりがな：　おくじょうようほうぶ ぶんぶく屋上養蜂部 ☑任意団体　□NPO 法人　□一般社団法人　□企業　□その他（　）		
協働団体	SFB（ストップ！ザ・フレイル文京※文京区と東京大学高齢社会総合研究機構が連携し実施するフレイル予防事業のサポーター養成講座を受けたボランティアグループ）、サンクチュアリ出版、松下産業、町内会・自治会、養蜂専門家、区外養蜂家、屋上養蜂に関心ある区民		
自団体および協働団体の役割分担	【ぶんぶく屋上養蜂部活動班】総務・会計事業計画の立案、各種申請業務、人員配置調整、事業計画立案&進捗管理、広報、イベント企画協力 【SFB（ストップ！ザ・フレイル文京）】活動班参画、ボランティア募集 【サンクチュアリ出版】広報・イベント班への協力 【松下産業】場所提供 【町会・自治会】認知・広報協力 【養蜂専門家】養蜂技術・安全指導・連携相談、勉強会講師 【区外養蜂家】技術・安全指導 【屋上養蜂に関心ある区民】イベントの参加、運営		
担当者名	武市　和彦	役職等	事務局
事業名	ぶんぶく屋上養蜂部		
部門（1 か 2 いずれか〇）	１．課題解決部門（該当の場合、いずれかの番号に〇） （1）高齢者の特殊詐欺被害を予防するための活動 （2）地域コミュニティの価値を見直し、新たなつながりが広がる活動 （3）男性高齢者の継続的な参加につながる社会参加を促すための活動 （4）介護の魅力を広く啓発し、様々な担い手と事業所のマッチングを図るための活動 （5）中学校卒業後の不登校等の孤立状態に対応できるボランティアを育成するための活動 （6）外国にルーツがある児童・生徒についての生活や学習支援活動 （7）その他、団体の専門性を生かしたテーマで提案された取り組み （8） ２．地域活性化部門		
提案背景目的 地域のどんな課題を解決したいかを明記	文京区では高齢者のいる世帯数は、年々増加傾向にあり、平成 27 年には３万世帯を超えた。その中でも高齢者単独世帯は年々増加しており、平成 27 年には高齢者のいる世帯の 41.8%を占めている。高齢者実態調査結果では、単身高齢者の特に男性は地域社会とのつながりが薄く、家に引きこもり状況となる傾向があるとの結果となっており、そのような傾向がフレイル状態へ陥るリスクを高めると言われている。その対応として、地域の居場所などへの参加につなげる地域ぐるみの取り組みが必要だ。今回の PJ では、男性高齢者が参加したくなる活動の切り口として、「事業型」且		

	つ「試行錯誤ができる」という特徴を持つ活動を男性高齢者で立上げ、子どもから高齢者までが参加できる機会を設ける。地域ぐるみで事業に取り組むことで、男性高齢者の社会参加への一助になればと考えている。
事業内容	令和 3 年 4 月から養蜂作業をスタートさせることを目標に、ソフトとハード両面での準備を行ってきた。ソフト面では①養蜂作業の実際とミツバチの生態等について事前学習を定期的に開催。テキストを用いた「養蜂でまちづくり　セミナー＆ワークショップ」を月一回専門家も参加して定期開催、令和 2 年 11 月 16 日に「養蜂でまちづくり　セミナー＆ワークショップ」を開催。案内チラシを作成し区内の区出先機関や朝日新聞へのチラシの折込などを行い広く宣伝を行った結果 31 名の方が参加。内 8 割の方が今後も活動に参加したいと答えていただいた。②足立区都市農業公園で養蜂作業を実施している団体で令和 2 年 8 月末までの間、数回実際の養蜂作業をコアメンバー2 名が体験した。③「養蜂でまちづくりセミナー＆ワークショップ」の参加者に呼びかけて、「ぶんぶく自主ゼミ」や「養蜂作業 DVD 上映会」を開催。新たに 6 名の方がそれらの企画に新たに参加している。④活動ニュースの発行、ぶんぶく屋上養蜂部 Facebook・公式 LINE の立ち上げ、文京区社会福祉協議会だより（広報紙）への活動紹介の掲載などを行った。結果 Facebook へのアクセス数も現在増加している。 　ハード面では①4 月から養蜂をスタートさせるために、10 月に養蜂器具を購入と令和 3 年 4 月からの養蜂作業開始を見越して蜂群の入手の手配を行った。②養蜂作業場所である文京区根津地域のビルの屋上のオーナー（サンクチュアリ出版）との調整、町内会を通じたご近所の方々への事業説明を行ってきた。③令和 3 年 3 月、屋上への倉庫設置、巣箱周辺の環境整備、雨対策を行い、4 月からの養蜂スタート準備を行う予定としていたが、2 月末に養蜂作業予定地域にお住まいの方から意見が出され、対応した結果当初予定地での作業継続を断念。養蜂作業場所を次年度予定していた松下産業（本郷）へ場所を変更することを決定。現場見学とビル管理者との打ち合わせも行い予定どおり 4 月から作業開始できることになった。
	SFB サポーターの定例会で常に養蜂事業の進捗を報告しているほか、定期発行している SFB ニュースにぶんぶく屋上養蜂活動の定期掲載を行っている。結果サポーターからの「セミナー＆ワークショップ」への参加者もある。「高齢者の健康、社会参加活動を一緒に実施している実感がある」等の感想も寄せられている。「セミナー＆ワークショップ」参加以後ぶんぶく屋上養蜂部活動に参加していただいている湯治さん、中野さんは蜜蝋を使ったクリームを作成しており、今回の事業を通じて「蜜蝋を使った商品開発を行い、ぶんぶく屋上養蜂部の活動を支えたい」との声を頂いている ・高齢福祉課社会参画支援係 　コロナ禍で養蜂活動ができない中にあっても、SFB における適時適切な事業周知活動に努めるとともに、セミナー等の機会を通じた区民向け周知も行われており、積極的な姿勢が見られることから、来年度以降も引き続き協働していきたい。

協働による効果	「セミナー＆ワークショップ」を開催し、31 名の方が参加。以後 6 名の方が「セミナー」などに新たに参加、見学に来て頂いている。 養蜂作業の技術指導をしていただいている岡田さんには「セミナー」でのご指導 養蜂作業開始に当たっての技術指導への援助をお願いしている。その中で新たに「まちづくり」という視点が事業の中に生まれた。
事業成果および今後の活動予定	コロナ禍の中、当初予定していた養蜂開始より一年間延期となったが、4 月に養蜂作業開始を目指して余裕を持って準備をすすめることができた。課題としては、事業参加へのボランティアの参加がまだ予定数より少ないこと。今後 4 月に養蜂をスタートさせて、最初はコアメンバーでの養蜂作業を軌道に乗せ、その後見学者を受け入れて、ボランティア参加者を増やすことを目標に取り組みたい。また、蜂蜜を使った商品開発にも着手して、事業を軌道に乗せて、一人暮らしの高齢者の参加へつなげて行きたい。

※別紙 1：事業スケジュール［報告版］
※別紙 2：収支決算報告
※別紙 3：関係者マップ［報告版］（提案時の確定版と比較できる状態）

※追加別添 1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ
※追加別添 2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10 枚以内）

様式第8号 別紙1：事業スケジュール[報告版]

「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

作成日 ： 令和3年3月24日

団体名 ：ぶんぶく屋上養蜂部

事業名	ぶんぶく屋上養蜂部

月	実施内容						
	巣箱設置の準備	打合せ関連	イベント	ボランティア募集	研修参加、視察	広報関連	
令和2年4月							
5月		今年度の活動に向けた打合せの開始					
6月		定例会議 自主勉強会			フミコムcafé参加 足立区活動視察		
7月					足立区活動視察		
8月			チラシ作		足立区活動視察	SNS（LINE、Facebook）作成	
9月	町会挨拶 地域センター挨拶	区外養蜂家打合せ	地域活動センター周知 町会掲示板周知 チラシ新聞折り込み		足立区活動視察	SNS更新	
10月	養蜂器具発注 巣箱発注		サロン周知 かよい～の周知 居場所周知 フレイルチェックで周知			フレイルチェックで周知	
11月	町会関係者挨拶	オーナー打合せ	イベント開催			SNS更新 ニュースレター作成 見本市参	
12月	飼育届提出		イベント参加者向け連絡			フレイルチェックで周知	
令和3年1月	町会長挨拶、相談	オーナー打合せ		イベント対応 （自主ゼミ、周知）		SNS更新 だより掲	
2月	屋上整備	オーナー打合せ				SNS更新 ニュースレター作成	
3月	新規屋上の見学と整備		4月の設置イベント検討			SNS更新	

様式第8号 別紙2:収支決算報告　　「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

作成日 ： 令和 3年 3月 24日　　団体名 :ぶんぶく屋上養蜂部

収入　　1,000,400 円

費 目	決算額	積 算 根 拠
「Bチャレ」助成金	1,000,000 円	課題解決部門
団体より支出	400 円	

支出　　1,000,400 円

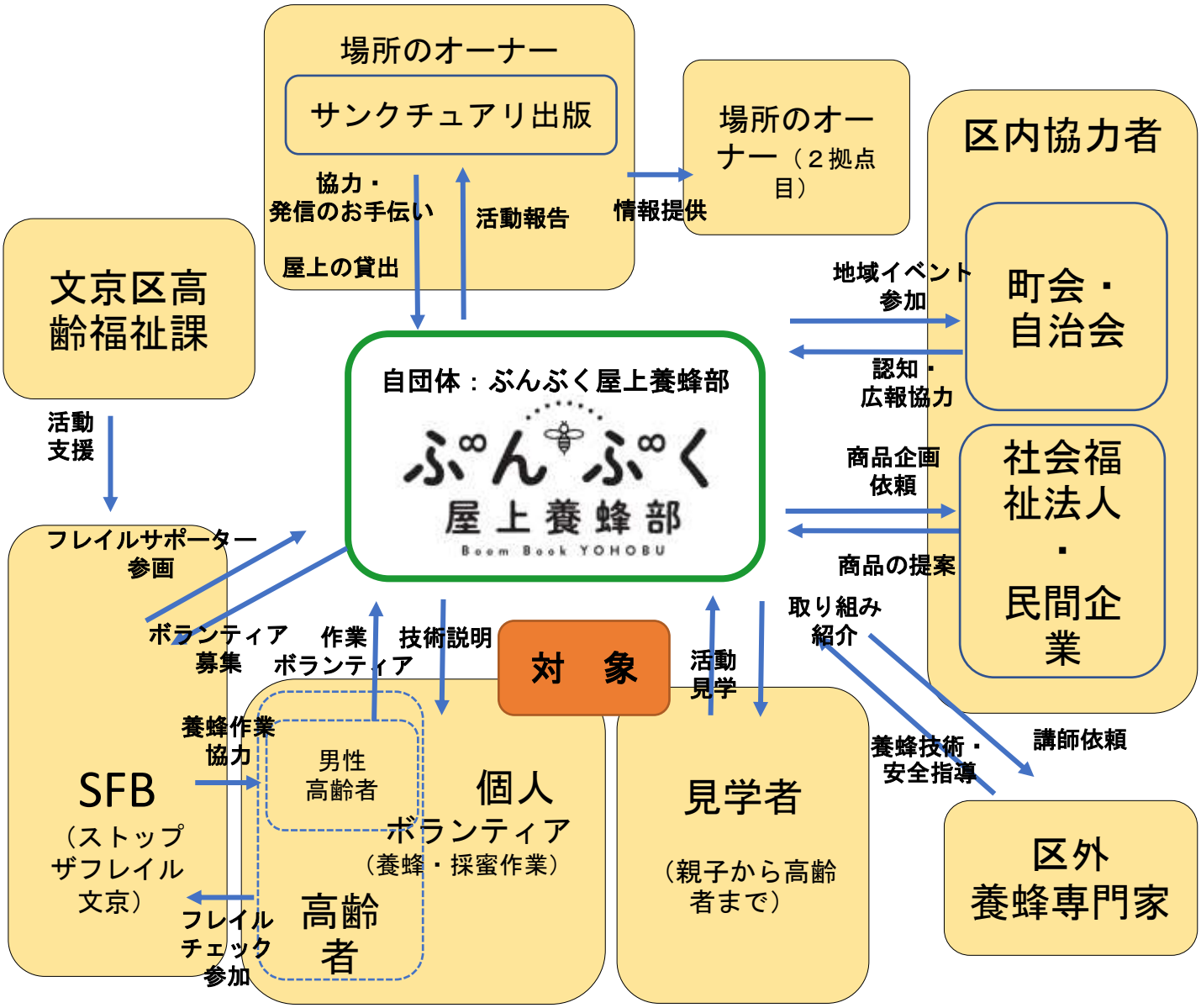
費 目	決算額	積 算 根 拠
養蜂開始に必要な準備費	620,980 円	**養蜂器具一式（302,280）、ボランティア作業着等（105,300）、屋上整備・巣囲いDIY一式（185,000）、消耗品（20,000）、書籍、その他物品（8,400）**
講師謝礼	236,000 円	**勉強会講師謝礼 養蜂専門家へのアドバイザー謝礼**
印刷費	76,000 円	**勉強会チラシ（36,000） 活動紹介チラシ作成・印刷（40,000）**
イベント費	49,500 円	**会場代、新聞折り込み料**
視察関連費	17,500 円	**交通費**
その他	420 円	**送金手数料**

別紙3：関係者マップ

作成日：令和2年3月6日

Bチャレ（提案公募型協働事業）【令和2年度】

団体名：　ぶんぶく屋上養蜂部

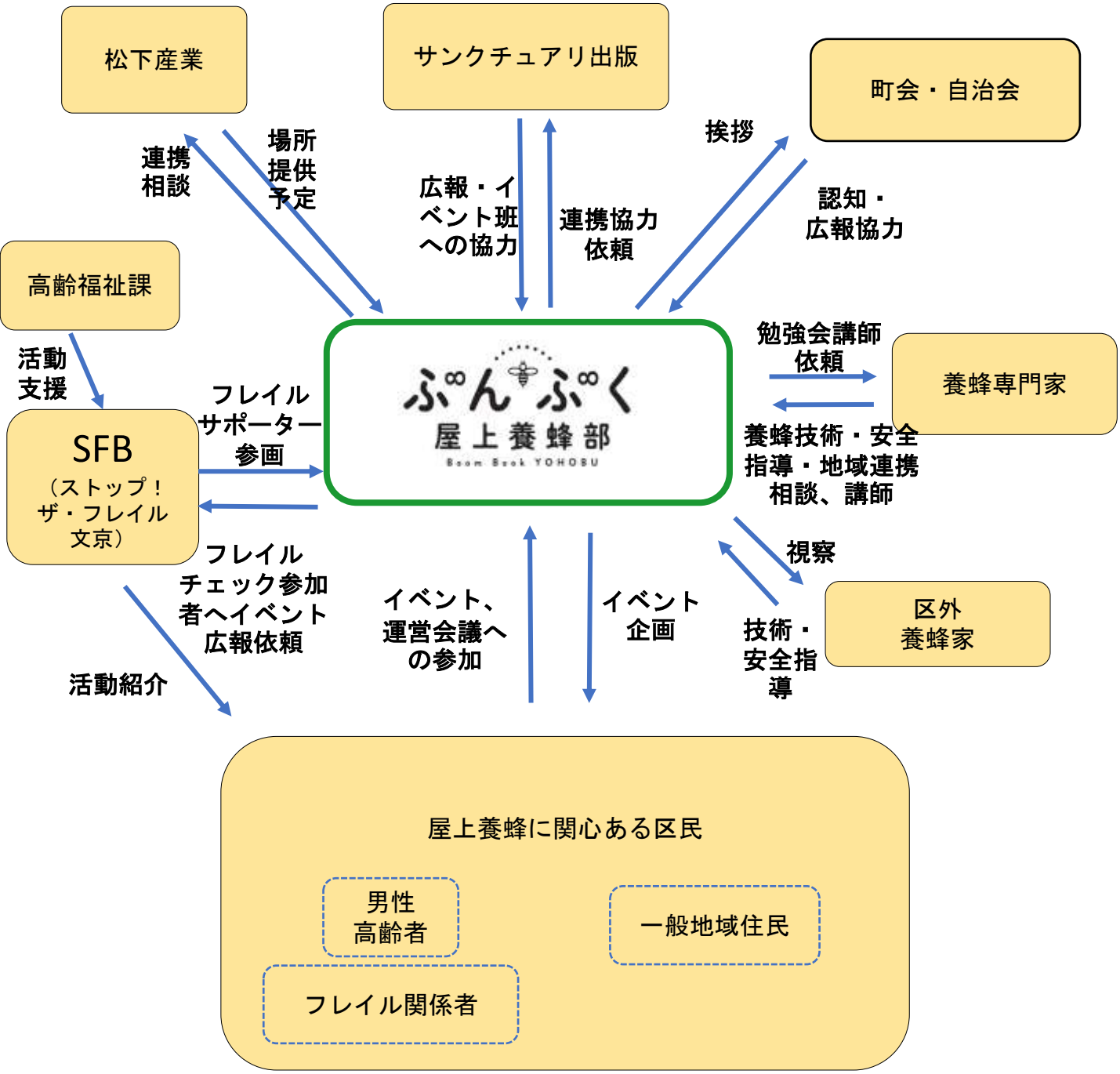


様式第8号 別紙3：関係者マップ[報告版]

作成日： 令和3年 3月 24日

「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

団体名：ぶんぶく屋上養蜂部



提出日	令和 3 年　3 月 24 日	記入者	武市　和彦
団体名	ふりがな：　おくじょうようほうぶ ぶんぶく屋上養蜂部 ☑任意団体　□NPO 法人　□一般社団法人　□企業　□その他（　）		
協働団体	SFB（ストップ！ザ・フレイル文京※文京区と東京大学高齢社会総合研究機構が連携し実施するフレイル予防事業のサポーター養成講座を受けたボランティアグループ）、サンクチュアリ出版、松下産業、町内会・自治会、養蜂専門家、区外養蜂家、屋上養蜂に関心ある区民		
自団体および協働団体の役割分担	【ぶんぶく屋上養蜂部活動班】総務・会計事業計画の立案、各種申請業務、人員配置調整、事業計画立案&進捗管理、広報、イベント企画協力 【SFB（ストップ！ザ・フレイル文京）】活動班参画、ボランティア募集 【サンクチュアリ出版】広報・イベント班への協力 【松下産業】場所提供 【町会・自治会】認知・広報協力 【養蜂専門家】養蜂技術・安全指導・連携相談、勉強会講師 【区外養蜂家】技術・安全指導 【屋上養蜂に関心ある区民】イベントの参加、運営		
担当者名	武市　和彦	役職等	事務局
事業名	ぶんぶく屋上養蜂部		
部門（1 か 2 いずれか〇）	１．課題解決部門（該当の場合、いずれかの番号に〇） （1）高齢者の特殊詐欺被害を予防するための活動 （2）地域コミュニティの価値を見直し、新たなつながりが広がる活動 （3）男性高齢者の継続的な参加につながる社会参加を促すための活動 （4）介護の魅力を広く啓発し、様々な担い手と事業所のマッチングを図るための活動 （5）中学校卒業後の不登校等の孤立状態に対応できるボランティアを育成するための活動 （6）外国にルーツがある児童・生徒についての生活や学習支援活動 （7）その他、団体の専門性を生かしたテーマで提案された取り組み （8） ２．地域活性化部門		
提案背景目的 地域のどんな課題を解決したいかを明記	文京区では高齢者のいる世帯数は、年々増加傾向にあり、平成 27 年には３万世帯を超えた。その中でも高齢者単独世帯は年々増加しており、平成 27 年には高齢者のいる世帯の 41.8%を占めている。高齢者実態調査結果では、単身高齢者の特に男性は地域社会とのつながりが薄く、家に引きこもり状況となる傾向があるとの結果となっており、そのような傾向がフレイル状態へ陥るリスクを高めると言われている。その対応として、地域の居場所などへの参加につなげる地域ぐるみの取り組みが必要だ。今回の PJ では、男性高齢者が参加したくなる活動の切り口として、「事業型」且		

	つ「試行錯誤ができる」という特徴を持つ活動を男性高齢者で立上げ、子どもから高齢者までが参加できる機会を設ける。地域ぐるみで事業に取り組むことで、男性高齢者の社会参加への一助になればと考えている。
事業内容	令和 3 年 4 月から養蜂作業をスタートさせることを目標に、ソフトとハード両面での準備を行ってきた。ソフト面では①養蜂作業の実際とミツバチの生態等について事前学習を定期的に開催。テキストを用いた「養蜂でまちづくり　セミナー＆ワークショップ」を月一回専門家も参加して定期開催、令和 2 年 11 月 16 日に「養蜂でまちづくり　セミナー＆ワークショップ」を開催。案内チラシを作成し区内の区出先機関や朝日新聞へのチラシの折込などを行い広く宣伝を行った結果 31 名の方が参加。内 8 割の方が今後も活動に参加したいと答えていただいた。②足立区都市農業公園で養蜂作業を実施している団体で令和 2 年 8 月末までの間、数回実際の養蜂作業をコアメンバー2 名が体験した。③「養蜂でまちづくりセミナー＆ワークショップ」の参加者に呼びかけて、「ぶんぶく自主ゼミ」や「養蜂作業 DVD 上映会」を開催。新たに 6 名の方がそれらの企画に新たに参加している。④活動ニュースの発行、ぶんぶく屋上養蜂部 Facebook・公式 LINE の立ち上げ、文京区社会福祉協議会だより（広報紙）への活動紹介の掲載などを行った。結果 Facebook へのアクセス数も現在増加している。 　ハード面では①4 月から養蜂をスタートさせるために、10 月に養蜂器具を購入と令和 3 年 4 月からの養蜂作業開始を見越して蜂群の入手の手配を行った。②養蜂作業場所である文京区根津地域のビルの屋上のオーナー（サンクチュアリ出版）との調整、町内会を通じたご近所の方々への事業説明を行ってきた。③令和 3 年 3 月、屋上への倉庫設置、巣箱周辺の環境整備、雨対策を行い、4 月からの養蜂スタート準備を行う予定としていたが、2 月末に養蜂作業予定地域にお住まいの方から意見が出され、対応した結果当初予定地での作業継続を断念。養蜂作業場所を次年度予定していた松下産業（本郷）へ場所を変更することを決定。現場見学とビル管理者との打ち合わせも行い予定どおり 4 月から作業開始できることになった。
	SFB サポーターの定例会で常に養蜂事業の進捗を報告しているほか、定期発行している SFB ニュースにぶんぶく屋上養蜂活動の定期掲載を行っている。結果サポーターからの「セミナー＆ワークショップ」への参加者もある。「高齢者の健康、社会参加活動を一緒に実施している実感がある」等の感想も寄せられている。「セミナー＆ワークショップ」参加以後ぶんぶく屋上養蜂部活動に参加していただいている湯治さん、中野さんは蜜蝋を使ったクリームを作成しており、今回の事業を通じて「蜜蝋を使った商品開発を行い、ぶんぶく屋上養蜂部の活動を支えたい」との声を頂いている ・高齢福祉課社会参画支援係 　コロナ禍で養蜂活動ができない中にあっても、SFB における適時適切な事業周知活動に努めるとともに、セミナー等の機会を通じた区民向け周知も行われており、積極的な姿勢が見られることから、来年度以降も引き続き協働していきたい。

協働による効果	「セミナー＆ワークショップ」を開催し、31 名の方が参加。以後 6 名の方が「セミナー」などに新たに参加、見学に来て頂いている。 養蜂作業の技術指導をしていただいている岡田さんには「セミナー」でのご指導 養蜂作業開始に当たっての技術指導への援助をお願いしている。その中で新たに「まちづくり」という視点が事業の中に生まれた。
事業成果および今後の活動予定	コロナ禍の中、当初予定していた養蜂開始より一年間延期となったが、4 月に養蜂作業開始を目指して余裕を持って準備をすすめることができた。課題としては、事業参加へのボランティアの参加がまだ予定数より少ないこと。今後 4 月に養蜂をスタートさせて、最初はコアメンバーでの養蜂作業を軌道に乗せ、その後見学者を受け入れて、ボランティア参加者を増やすことを目標に取り組みたい。また、蜂蜜を使った商品開発にも着手して、事業を軌道に乗せて、一人暮らしの高齢者の参加へつなげて行きたい。

※別紙 1：事業スケジュール［報告版］
※別紙 2：収支決算報告
※別紙 3：関係者マップ［報告版］（提案時の確定版と比較できる状態）

※追加別添 1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ
※追加別添 2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10 枚以内）

様式第8号 別紙1：事業スケジュール[報告版]

「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

作成日 ： 令和3年3月24日

団体名 ：ぶんぶく屋上養蜂部

事業名	ぶんぶく屋上養蜂部

月	実施内容						
	巣箱設置の準備	打合せ関連	イベント	ボランティア募集	研修参加、視察	広報関連	
令和2年4月							
5月		今年度の活動に向けた打合せの開始					
6月		定例会議 自主勉強会			フミコムcafé参加 足立区活動視察		
7月					足立区活動視察		
8月			チラシ作		足立区活動視察	SNS（LINE、Facebook）作成	
9月	町会挨拶 地域センター挨拶	区外養蜂家打合せ	地域活動センター周知 町会掲示板周知 チラシ新聞折り込み		足立区活動視察	SNS更新	
10月	養蜂器具発注 巣箱発注		サロン周知 かよい～の周知 居場所周知 フレイルチェックで周知			フレイルチェックで周知	
11月	町会関係者挨拶	オーナー打合せ	イベント開催			SNS更新 ニュースレター作成 見本市参	
12月	飼育届提出		イベント参加者向け連絡			フレイルチェックで周知	
令和3年1月	町会長挨拶、相談	オーナー打合せ		イベント対応 （自主ゼミ、周知）		SNS更新 だより掲	
2月	屋上整備	オーナー打合せ				SNS更新 ニュースレター作成	
3月	新規屋上の見学と整備		4月の設置イベント検討			SNS更新	

様式第8号 別紙2:収支決算報告　　「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

作成日 ： 令和 3年 3月 24日　　団体名 :ぶんぶく屋上養蜂部

収入　　1,000,400 円

費 目	決算額	積 算 根 拠
「Bチャレ」助成金	1,000,000 円	課題解決部門
団体より支出	400 円	

支出　　1,000,400 円

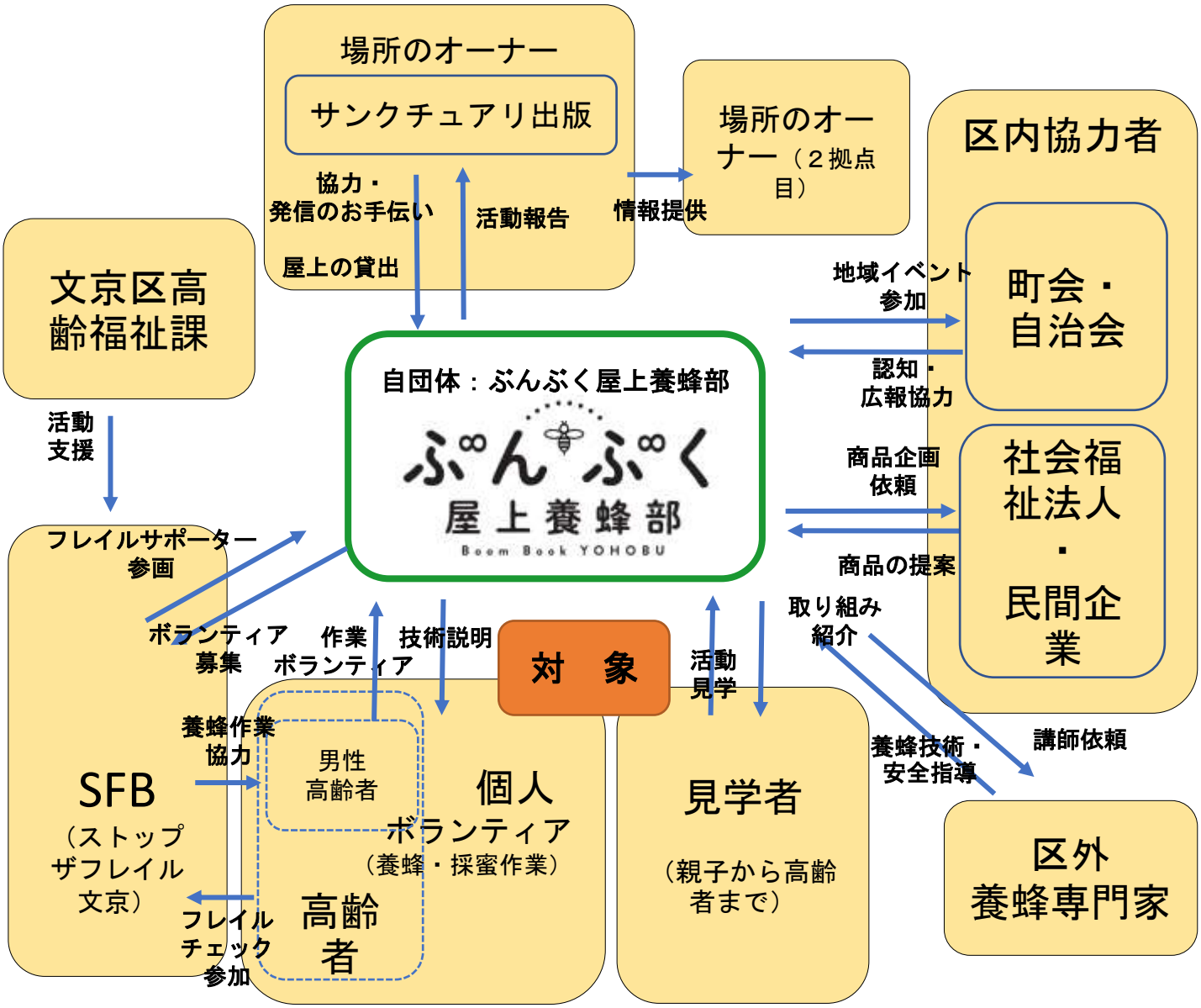
費 目	決算額	積 算 根 拠
養蜂開始に必要な準備費	620,980 円	**養蜂器具一式（302,280）、ボランティア作業着等（105,300）、屋上整備・巣囲いDIY一式（185,000）、消耗品（20,000）、書籍、その他物品（8,400）**
講師謝礼	236,000 円	**勉強会講師謝礼 養蜂専門家へのアドバイザー謝礼**
印刷費	76,000 円	**勉強会チラシ（36,000） 活動紹介チラシ作成・印刷（40,000）**
イベント費	49,500 円	**会場代、新聞折り込み料**
視察関連費	17,500 円	**交通費**
その他	420 円	**送金手数料**

別紙3：関係者マップ

作成日：令和2年3月6日

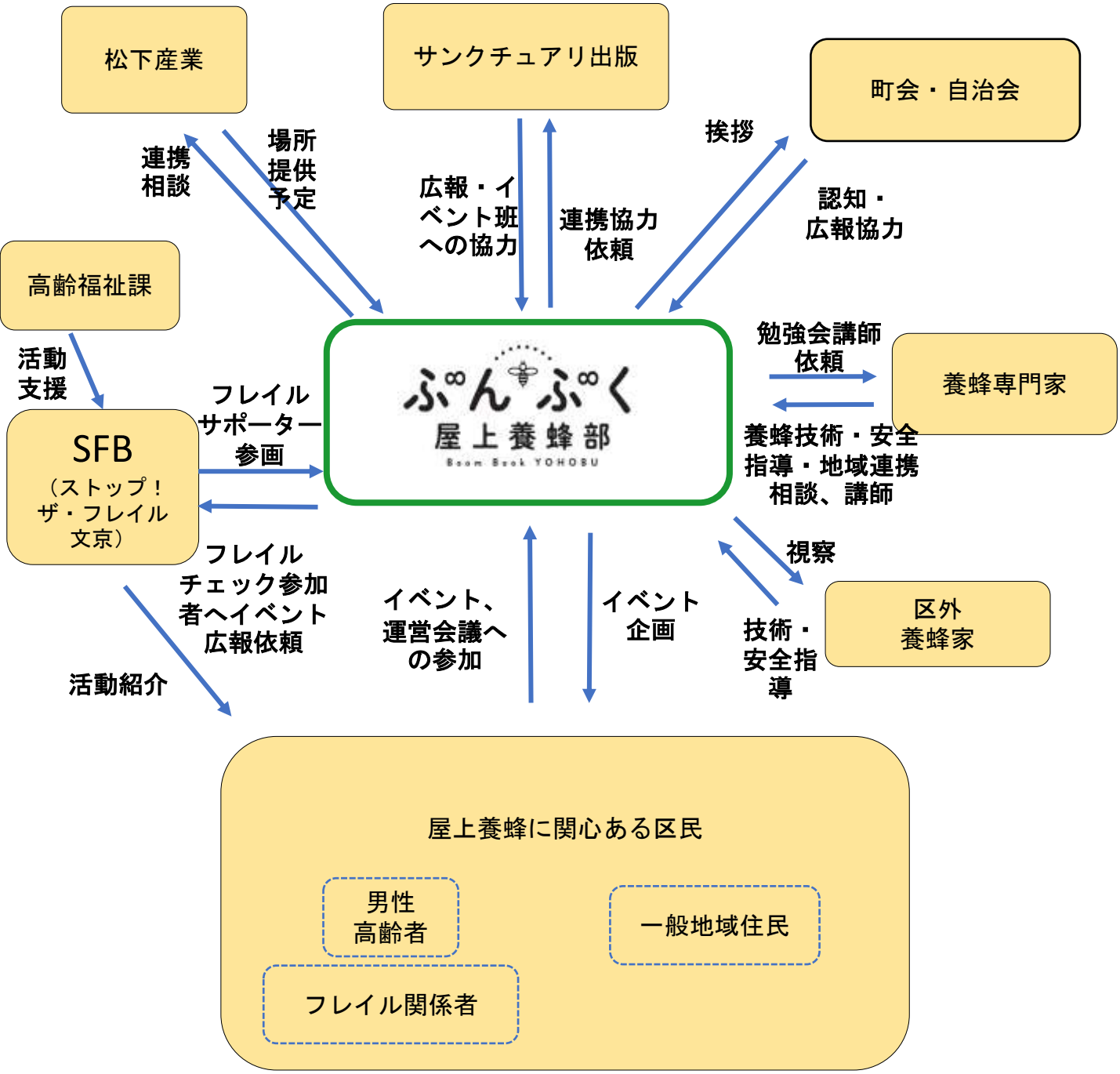
Bチャレ（提案公募型協働事業）【令和2年度】

団体名：　ぶんぶく屋上養蜂部



様式第8号 別紙3：関係者マップ[報告版]

作成日： 令和3年 3月 24日

「Bチャレ」提案公募型協働事業【令和2年度】

団体名：ぶんぶく屋上養蜂部